

健康者並ニ肺結核患者ニ於ケル非定型的 赤血球沈降速度ト其ノ豫後の意義ニ就テ

大阪帝國大學醫學部第三内科(主任 今村教授)

醫學士 井 下 勝 馬

醫學士 田 中 幸 男

醫學士 米 田 庄 三 郎

目 次

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| 一、緒 言 | 核ノ症例 |
| 二、健康青年男子ニシテ赤血球沈降速度ガ甚シク
速進セシ例 | 四 結 論
文 獻 |
| 三、非定型的赤血球沈降速度ヲ有スル活動性肺結 | |

(第 11 回結核病學會總會ニ於テ演說セリ)

一 緒 言

Fahraeus ガ妊婦ニ於テ赤血球沈降速度ノ速進スル事實ヲ指摘セシ以來、此現象ニ關スル本態的並ニ臨牀的研究ハ甚ダ旺ニ行ハレ、其業績報告ハ驚クベキ多數ヲ算ス。就中肺結核ノ領域ニ於テ重要視セラレ、或ハ病勢判定ノ上ニ、或ハ治療上ノ指針タラシメントシテ、今日ニ於テハ實際的ニ廣ク應用セラル、ニ至レリ。

一般的ニ言ヘバ肺結核ニ於テハ赤血球沈降速度ハ病竈ノ廣狹、浸潤ノ性質、組織崩壞ノ多寡ニ應ジテ速遅スルモノ一シテ、廣範ナル病竈ヲ有スルモノハ小局所ノ病竈アルモノヨリ速進著シク、滲出型ノモノハ増殖型ノモノニ於ケルヨリ著シク沈降速進ス。從ツテ沈降速度ノ著明ニ速進セルモノハ、ソノ程度ノ著シカラザルモノヨリ豫後不良ナルベキハ概括的ニ認メ得ル所ナリ。

我今村内科ニ於テハ特ニ觀察ニ便ナル入院肺結核患者 130 症例ニ就テ本反應ト豫後トノ關係ヲ

考察シ、赤血球沈降速度ガ肺結核ノ豫後判定上重要ナル一資料タルコトヲ認メタリ。(今村教授「肺結核ノ豫後」——日本鐵道醫協會雜誌第 19 卷第 9 號及ビ大阪醫事新誌第 4 卷第 10 號參照)。偶々右ノ觀察中ニ於テ今村教授ハ若干ノ非定型的(或ハ例外的)ナル赤血球沈降速度ヲ示ス症例ヲ指摘シ、吾人ニ其調査ヲ命ゼラレタリ。依リテ吾人ハ斯ル症例ノ一部ヲ第 11 回日本結核病學會總會ニ於テ報告シタリ。

抑々カ、ル例外的赤血球沈降速度ヲ有スル症例ニ就テハ既ニ諸家ノ報告アリ。1927 年 A. Tillisch ハ開放性肺結核患者ニシテ赤血球沈降速度ノ速進ヲ見ザル 19 症例ヲ報告シ、Westergren ハ之ニ追加シテ彼自身亦斯ル症例 2 例ヲ有スト述ベタリ。又 W. Jllig ハ“ Atypische Blutsenkungsreaktion bei Lungentuberkulose ”ト題スル論文ニ於テ(1)肺結核病竈ニ比シテ赤血球沈降速度ノ速進甚ダ高度ナルモノ、

(2) 肺所見一比シテ沈降速進ノ輕度ナルモノ、合セテ數 10 例ヲ觀察シ其豫後ヲ論ジテ、前者ハ何等豫後のニ不良ナルノ徴ニ非ズ、後者ハ良好ナル豫後ヲ示スモノナリトセリ。最近ニ至リ S. Berg 亦開放性肺結核患者ニシテ赤血球沈降速度ガ正常或ハ甚ダ輕度ノ速進ヲ示ス症例ノ豫

後ヲ觀察シテスル患者ノ豫後ハ良好ナルモノ、如シト結論セリ。

余等ハ健康男子ニ就テ調査シ更ニ健康者及ビ活動性肺結核患者ニ於テ非定型的赤血球沈降速度ヲ示セル例ニ於テ茲ニ記述セントス。

二 健康青年男子ニシテ赤血球沈降速度ガ甚シク速進セル例

抑々健康者ニ於ケル赤血球沈降速度ハ如何ナル値ヲ示スモノナルカ、試ニ諸家ノ經驗ニ徵スレバ次ノ如シ(第 1 表)。

第 1 表

實 驗 者	男 (mm)	女 (mm)
Westergren	3	7
Katz	5	7
Fahraeus	4	8
Haselhorst	5	12
Krimphoff	1—5	3—8
Leffkowitz	2—5	3—8
大 谷	1.7	8.8
吉 本	5.8	16
渡 邊	6	7.8
荒 川	5.6	13.2
佐々、小林	2	9
今村内科 (昭和 5 年度)	7.7	13.1
(何レモ Westergren-Katz 氏法ニ依ル 1 時間値)		

本表ノ示スガ如ク各實驗者ニ依リテ多少ノ差異アレドモ、女性ニ於ケル沈降値ガ男性ノソレヨリモ稍々大ナルハ各ニ一致スル所ナリ。

吾人ハ大阪府某師範學校寄宿生 230 名 (16 歳乃

至 22 歳)ノ嚴密ナル身體検査ヲ施行シ(理學的所見、喀痰、糞便、尿ノ検査、胸部「レントゲン」像、「ツベルクリン」反應等)コレニ依リテ健康ナリト認ムルモノ 172 名ニ於ケル赤血球沈降速度ヲ測定シテ次ノ結果ヲ得タリ(昭和 7 年 5 月調査)。

(Westergren-Katz ノ方法ニ依ル)

第 2 表

	1 時間値	2 時間値	中間値
平 均	7.1	16.7	7.5
最 大	4.8	80	44
最 小	1	2	1

而テ此結果前掲ノ昭和 5 年度ニ於ケル今村内科調査ノモノト近似ス。

注意スベキハ以上ノ健康者ト認メラル、モノニシテ沈降速度ノ中間値 (Mittelwert) ガ 20 耗以上ナルモノ 6 例 (3.4%)ヲ得タルコトニシテ、第 11 回日本結核病學會總會ニ於テ既ニ發表シ、次デ今村教授ガ「肺結核ノ豫後」ナル論文(前掲)ニ引用セラレシ所ナルガ、更ニ 1 年後ノ觀察ヲ附記シテ第 3 表ニ表示ス。

第 3 表 健康青年男子ニテ非定型的赤血球沈降速度ヲ有スル症例

症 例	年 齡	既 往 症	身 長 (cm)	體 重 (kg)	胸 圍 (cm)	ビ ル ケ 反 應	尿 的 中 成 分 病	便 的 中 成 分 病	合 併 症	赤 沈 (1932 年 5 月)			赤 沈 (1933 年 7 月 所 見)				
										1 時 間 間	2 時 間 間	M.W.	1 時 間 間	2 時 間 間	M.W.		
1	19	風邪ノ外ナシ	150.0	52.5	78.0	++	-	-	-	28	60	29	→	5	13	5.7	健康
2	20	..	164.0	56.0	85.0	++	-	-	-	48	80	44	→	3	8	3.5	健康
3	19	脚 氣	163.0	55.0	83.0	-	-	-	-	39	45	30.7	→	5	16	6.3	脚氣
4	17	右肋膜炎肺炎	156.7	62.0	83.0	++	-	-	-	22	40	21	→	11	23	11	健康
5	17	脚 氣	159.5	48.0	75.0	-	-	-	-	27	33	21.7	→	12	31	13.7	健康
6	16	風邪ノ外ナシ	161.4	50.0	85.0	+	-	-	-	19	44	20.5	→	6	14	6.5	健康

此中ビルケー氏反應陰性ナリシ第3例及ビ第5例ニ於テハ2千倍稀釋「ツベルクリン」0.1 ㏍ノ皮内注射ヲ試ミタリシニ、第3例ハ陰性、第5例ハ48時間後ニ中等度ノ發赤ヲ認メタリ。6例共其後滿1ケ年ノ經過ニ於テ罹患就牀セシモノナク、昭和8年7月ノ再検査ニテハ赤血球沈降速度ハ盡ク健康者ノ平均、又ハソレニ近キ値ニ復セリ。

第7例。■■■■ 20歳、男、體重55.7、身長171.5、胸圍81、肺活量2900 ㏍ニシテ風邪ノ外著患ヲ知ラズ。身體検査ニ際シテ異常アルヲ認メズ。

三 非定型的赤血球沈降速度ヲ有スル活動性肺結核ノ症例

活動性肺結核アル患者ニ於テハ赤血球沈降速度ハ速進セラル、モノナリ。然レドモ毎常必ズシモ然ルニアラズ。

第9例。■■■■ 37歳、男、官吏。

昭和7年10月血痰1回、微熱、咳嗽アリシモ約2ケ月ニシテ自覺症狀消退セルヲ以テ職業ニ就カントシ念ノ爲來院受診ス。兩肺尖部打診音短、呼吸音粗ナル外著變ナシ。尿中ニ蛋白ノ痕跡ヲ認ム。糞便中ニ蛔蟲卵アリ。赤沈1時間2、2時間11、24時間75、M.W. 3.7 然ルニ喀痰中ニ結核菌陽性ニシテ、「レントゲン」像ニ於テハ兩側第三肋間ヨリ上部ニ著明ナル細葉集簇性陰影ヲ見、左第一肋間部ニ於テハ融合ノ傾向ヲ示ス。肺門部陰影著明ニ擴大ス。依リテ休養ヲ命ジオキタルニ從ハズシテ就業ス。タメニ病勢惡化シ4ケ月後ニ入院セシ時ニハ38度以上ノ弛張熱アリ、喀痰、咳嗽甚シク羸瘦加ハル。「レントゲン」像ニ於テモ、左側第五肋間以上ノ部ハ全ク滲出性陰影ヲ以テ占據セラレ濕性「ラッセル」ヲ聽取ス。赤沈1時間128、2時間135、6週間在院セシモ病勢停止セズシテ退院ス。

第10例。■■■■ 41歳。男、會社員。

開放性肺結核。昭和7年4月血痰1回、自覺症狀ヲ缺除ス。右肺各所ニ少數ノ水泡音出沒ス。7月入院。赤沈1時間14、2時間18、M.W.

唯尿中ニ蛋白ノ痕跡アルヲミルノミ。赤沈1時間27、2時間59ニシテ中間値28.3、ビルケー氏反應ハ陽性。4ケ月後ニ濕性肋膜炎ヲ起シテ廢學ス。

第8例。■■■■ 20歳、男、體重57、身長159.8、胸圍82、肺活量3500 ㏍、生來著患ヲ知ラズ。劍道及競技ノ選手。自覺の並ニ他覺のニ病的徵候ナシ。ビルケー氏反應陽性ニシテ赤沈1時間8、2時間20、中間値9、然ルニ6月ヨリ肋膜炎ヲ起シテ遂ニ死ニ終ル。

11.7、「レントゲン」像ニ於テ右肺葉全體ニ互ル廣範ナル滲出型及増殖型陰影混在シ左第一肋間ニモ亦滲出型ノ細葉性ノ陰影アリ。入院時微熱アリシモ5週後ノ退院時ニハ全ク消退シ、退院後モ經過良好ニシテ約1ケ年後ニ體重10 ㏍ヲ増シ赤沈1時間値8、2時間値19、24時間84トナル。

第11例。■■■■ 25歳。男、學生。

開放性肺結核。昭和7年6月微熱ヲ訴ヘテ來院、「レントゲン」像ニテ右肺尖部及第二肋間ニ主増殖型ノ細葉集簇性陰影中等度ニ存在シ、且右鎖骨下ニ鳩卵大ノ空洞形成ヲ認ム。右横隔膜面波形ニ曲歪シ、肋膜炎性陰影中等度ニ存在ス。昭和8年1月入院。當時赤沈1時間3、2時間10、M.W. 4、右肺尖部ニ於テ少數ノ濕性囉音ヲ聽取ス。人工氣胸術ヲ試ミシモ肋膜癒著アルタメカ空氣ヲ送入スル能ハズ。専ラ安靜療法ニ依リテ微熱退降シ體重約3 ㏍ヲ増加ス。3ケ月後退院。經過良好ニシテ現在通學ス。赤沈1時間3、2時間8、M.W. 3.5 (昭和8年10月7日)

第12例。■■■■ 21歳。男。

開放性結核。昭和7年10月血痰數回、咳嗽、喀痰輕度、倦怠感アリ。右肺鎖骨上下窩部打診上輕濁音ヲ呈シ、聽診上呼吸音粗ニシテ呼氣延長ス。入院後ニ於テ右肺所々ニ散在シテ少數ノ濕

性囉音ヲ聽取ス。微熱。「レントゲン」像ニテ兩肺上半部ニ主増殖型ノ細葉小葉性陰影中等度ニ存在シ、右第一第二肋間部特ニ著明ナリ。赤沈 1 時間 4、2 時間 10、M.W. 4.5、約 2 ヶ月ニシテ退院。病勢ハ停止型ナリ。其後觀察ノ機ヲ得ズ。

第 13 例。■■■■ 26 歳、女。

開放性肺結核。昭和 7 年 8 月微熱及ビ左胸部ニ時々鈍痛アリ。左肺尖部ニ打診上抵抗ヲ感ジ聽診上呼吸音粗ナリ。「レントゲン」像ニ於テハ兩側肺尖部硝々濁ヲ示シ殊ニ右肺尖部ニ著明。増殖型陰影ナリ。肺門部陰影擴大ス。右第五肋間外側ニ拇指頭大ノ石灰化セル初期感染竈ヲ認ム。兩側橫隔膜波形ヲ示シ且此部ニ索狀ノ肋膜炎性陰影ヲ見ル。右肺尖部ニ於テ少數ノ濕性囉音出沒ス。沈降速度 1 時間 11、2 時間 32、24 時間 88、M.W. 13.5、入院後經過良好ニシテ囉音ハ消失シ、12 月ニハ赤沈 1 時間 3、2 時間 6、M.W. 3、但シ微熱ハ尙存ス。

第 14 例。■■■■ 31 歳、男、無職。

昭和 7 年 1 月頃ヨリ倦怠感、心悸亢進、胸痛アリ。10 月ヨリ血痰數回、微熱、兩肺尖部打診音短ニシテ聽診上呼吸音甚ダシク粗。「レントゲン」像ニテ右肺第四肋間ヨリ上部ニ細葉集簇性陰影廣ク存在ス。主増殖型ナリ。左肺尖部モ稍々濁ス。赤沈 1 時間 2、2 時間 8、M.W. 3、右肺鎖骨上下窩ニ於テ時々微小ナル濕性囉音ヲ聽取ス。退院後 1 ヶ年尙加療中ナルモ體重増加シ血痰ヲ喀出スルコトナク、自覺症狀殆ド消退ス。

第 15 例。■■■■ 31 歳、男、店員。

(通院患者)昭和 7 年 6 月 2 日、10 日及ビ 7 月 17 日ニ血痰。7 月 20 日ニ少量喀血ス。體溫ハ 36.7 度ヲ超スコトナシ。右肺尖部打診音短ニシテ、呼吸音ハ粗ニシテ微弱、呼氣延長ス。且此部ニ於テ僅數ノ濕性囉音ヲ聽取ス。「レントゲン」像ニ於テ右鎖骨下外側ニ早期浸潤陰影ヲ見ル。沈降速度 1 時間 5、2 時間 11、24 時間 66 ニシテ M.W. 5.2、然ルニ昭和 8 年 2 月ノ「レントゲン」

像ニ於テハ右側肺ノ陰影ハ著明ニ増殖型トナレルヲ認ム。ソノ間血痰ヲ喀出セルコト 1 回アリシモ一般狀態及ビ臨牀所見甚ダ佳良トナリ、良性ノ經過ヲトル。昭和 8 年 7 月 18 日ノ検査ニテ赤沈ハ 1 時間 3、2 時間 8、M.W. 3.5。

第 16 例。■■■■ 28 歳、男、電氣局員。

(通院患者)昭和 7 年 11 月初旬相當量ノ喀血アリ。其後數日間血痰ヲ喀出ス。發熱 37.2 度、右肺尖部打診上短音ニシテ聽診上呼吸音粗右乳嘴ノ外側ニ於テ小ナル水泡音ヲ聽取ス。「レントゲン」像ニ於テハ左右肺尖部濁シ、左鎖骨下ニ細葉小葉性ノ陰影ヲ認ム。増殖滲出混合型ナリ。肺門陰影ハ左右共著明ニ擴大ス。兩側肺下部ニ於テ肋膜炎性索狀陰影著明ナリ。且右側橫隔膜面ハ著明ナル波形ヲ示ス。沈降速度 1 時間 1、2 時間 3、24 時間 55、M.W. 1.2、其後ノ經過ニ於テ遂ニ全ク囉音ヲ聽取セザルニ至ル。喀痰尙多シ。昭和 8 年 3 月再ビ相當量ノ喀血ヲ見タルガ其後ハ全ク喀血或ハ血痰ヲ喀出スルコトナシ。昭和 8 年 7 月赤沈 1 時間 2、2 時間 5、24 時間 75、M.W. 2.2、「レントゲン」像ニ於テモ左鎖骨下及他部位ノ陰影共ニ著明ニ増殖型トナレリ。體重増加ヲ見ザルモ、發熱ナク、全ク慢性良性ニ經過ス。

第 17 例。■■■■ 31 歳、女、(通院患者)

開放性肺結核。昭和 7 年 4 月扁桃腺炎ニ罹リ高熱ヲ發ス。數日ニシテ解熱セシモ、ソレ以後毎午後ニ微熱ヲ訴フルニ至ル。且盜汗アリ白帶下ヲ訴フ。右肺尖部打診音輕濁、聽診上右肺尖部ヨリ第二肋間ニ至ル間呼吸音粗ニシテ呼氣延長ス。右鎖骨上窩部ニ於テ僅數ノ水泡音アリ。右肺ノ下半部呼吸音弱シ。「レントゲン」像ニ於テハ兩肺尖部濁シ、特ニ左側ニ著シ。右肺門淋巴腺陰影中等度ニ腫大セルヲ見ル。赤沈、1 時間 7、2 時間 21、M.W. 9、其後觀察ノ機ヲ得ズ。

第 18 例。■■■■ 25 歳、男、機關手。

昭和 4 年喀血シテ入院シ略治ノ上退院セリ。昭和 8 年 1 月感冒ニ罹リ、以後右胸部ニ鈍痛アリ。疲勞シ易シトイフ。2 月 27 日ノ所見ニ依レバ

右肺尖部打診音短ニシテ聽診上水泡音アリ。赤沈1時間8、2時間23、24時間76、M.W. 10.7、「レントゲン」像ハ右第二肋間外側部ニ小指頭大ノ増殖型ノ陰影散在シ、其一部ハ石灰沈著ノ像ヲ呈ス。1ヶ年半後ノ今日ニ於テ食慾良好ニシテ體重増加シ、工場火夫トシテ就業、1日10時間ノ労働ニ従事シテ疲勞ヲ覺エズトイフ。

第19例。■■■■ 52歳、女。(通院患者)
昭和7年11月7日朝突然血痰ヲ喀出。右鎖骨下窩部打診上輕濁音ヲ呈シ、呼吸音粗ニシテ呼氣延長ヲ認ム。且少數水泡音ヲ聽取。右肺背面部打診音短ニシテ呼吸音甚ダ粗ナリ、「レントゲン」像ニ於テ右肺門腺陰影ノ腫大著明ナリ。右鎖骨上下部ニ細葉性ノ陰影ヲ認ム。赤沈1時間12、2時間34、24時間96、M.W. 14.5、其後再診ノ機ヲ有セズ。半歳後ニ「至極壯健ニ御座候」トノ回答ニ接ス。

第20例。■■■■ 29歳、女、文具商。
昭和7年11月ヨリ咳嗽、喀痰ヲ發シ左胸部ニ疼痛ヲ訴フ。左右兩肺尖部打診上輕濁音ヲ呈シ、聽診上呼吸音甚ダ粗ナリ。且少數ノ水泡音ヲ聽取ス。「レントゲン」像ニ於テ兩側鎖骨上部中等度ニ濁濁ス。左第一肋間部ニ石灰化セル細葉小葉性陰影ノ散在セルヲ認ム。赤沈1時間10、2時間22、24時間90、M.W. 10.5、其後觀察ノ機ヲ得ザレドモ問合セニ對シ「異常ナシ」トノ回答ヲ得タリ。

第21例。■■■■ 18歳、女。(通院患者)
昭和7年11月頃ヨリ微熱、喀痰、咳嗽、肩癢、頭痛ヲ訴フ。右肺尖部鎖骨上下窩ニ於テ打診音短ニシテ、聽診上呼吸音粗ニシテ呼氣延長ス。且此ノ部ニ微小ナル水泡音ヲ聽取ス。「レントゲン」像ニテ兩側肺門部陰影擴大シ、右肺尖部亦濁濁ス。右肺下部ニ肋膜炎性索狀陰影アリ。赤沈1時間5、2時間18、M.W. 7、其後觀察ノ機ヲ得ズ。

第9例ヨリ第21例ニ至ル13症例ハ、或ハ水泡音ヲ聽取シ、或ハ微熱アリ、或ハ喀血、血痰ヲ

訴フルモノニシテ、其ノ何レニ於テモ肺結核ガ活動性ノ状態ニアリト認ムベキモノナリ。内6例(第9、10、11、12、13、17例)ハ喀痰中ニ結核菌ノ存在ヲ見タル開放性肺結核患者ナリ。而テ其ノ赤血球沈降速度ハ13例共ニ、正常値ニ比シテ全く速進セラレズ、或ハ最輕度ノ速進ヲ見ルノミ。今試ミニ Westergren ニ從ヒテ沈降速度ノ限界ヲ健康者1時間男3mm. 以下、女7mm. 以下トシテ此13症例ヲ分類スレバ第4表ノ如シ。

更ニ其後ノ經過ヨリ豫後的ニ見テ之ヲ總括スレバ、甚シキ惡化ヲ來セルモノ1例(第9例、最近消息ヲ得ズ。死亡セシニアラズヤト考ヘラル)。全く不明ノモノ2名(第17、21例)アリ。

第 4 表

		結核菌陽性者	結核菌陰性者
第I群	♂ 赤沈 3mm 以下	2	2
	♀ 赤沈 7mm 以下	2	1
	計	4	3
第II群	♂ 赤沈 4—14mm	2	2
	♀ 赤沈 8—12mm	0	2
	計	2	4

合 計 13 名

コノ3例ヲ除ク残りノ10例ハ何レモ現在迄ノ經過(初診當時ヨリ9ヶ月乃至18ヶ月ヲ經過ス)ニ於テ、少クトモ病勢進行ノ徵ヲ認メズ。慢性ニ經過シ、既ニ筋肉労働ヲ開始シテ支障ナキモノ(第18例)、通學セルモノ(第11例)スラアリ。一般ニ豫後ハ良好ナリト考ヘラル。

肺結核患者ニ於テ病竈ノ活動性、或ハ治療ノ要否、及ビ作業開始ノ可否ヲ決定スルハ最重大ニシテ、之ガ判定ニハ慎重ナル総合的判斷ニ俟タザルベカラサル所ナリ。赤血球沈降速度ヲ指針トシテ之ニ臨ミシ學者亦尠カラズ。即チMürer-Hollumハ臨牀的觀察ヨリシテ沈降速度ノ1時間値ガ1—7耗ノ範圍ニアル患者ノ肺結核ハ停止型ニシテスルモノハ作業ヲ開始シテ可ナリト述べ、Westergren 及ビKatzハ4乃至6週間ニ反復シテ本反應ヲ檢シ、毎常正常値ノ

範圍ニアルモノハ、モ早ヤ治療ヲ要セズトノ見解ヲ持ス。然レドモ吾人が茲ニ擧ゲタル症例ノ如ク、稀ナリトハ雖モ活動性肺結核患者ニシテ赤血球沈降速度ガ全ク速進セズ或ハ速進程度甚ダ輕微ナルモノアリ。

肺結核ノ進展ハ患者ノ生活状態ノ如何ニ依リテ大ナル影響ヲ受クバシ、カ、ル故ニ一見健康者ニシテ赤沈尋常ナルモ、近キ將來ニ於テ發病、

遂ニ死ニ至ルモノアリ。第8例ノ如キ赤沈ノ中間値9ニシテ肋膜炎後死セリ。又第1例ヨリ第6例ニ至ル如キ一時的ニ赤沈異常ニ速ナリシモ其後健康ヲ保持セルモノアリ。活動性肺結核ト認ムベキモノニシテ赤沈ガ尋常ナルモノハ一般ニ言ヘバ豫後良好ナルモ、療養或ハ生活ノ如何ニヨリテ、此ノ如キモノニテモ病勢ノ惡化スルモノナキニシモアラズ。即チ第9例ノ如シ。

四 結 論

以上ノ觀察ニ依テ吾人ハ次ノ歸結ニ達ス。

(1) 本邦青年男子ノ赤血球沈降速度ハ吾人ノ測定ニ依レバ (Westergren-Katz ノ方法ニテ) 1時間7.1、2時間16.7、中間値7.5ヲ以テ平均トス。

(2) 臨牀上竝ビニ「レントゲン」像ニヨリテ健康ト見做スベキ青年男子ニシテ沈降速度ガ異常ナル速進ヲ示スモノアリ(6例, 3.4%)。ソノ原因ハ不明ナリ。但シスル速進ハ一時的ニシテ、何等豫後ノ不良ナルヲ示スモノニアラズ。茲ニ注

意スベキハ濕性肋膜炎ノ前期(又ハ最初期)ナルコトアリ。

(3) 活動性肺結核患者ニシテ沈降速度ガ速進セズシテ健常者ノ閾域内ニアルモノアリ。斯ルモノハ病勢停止ニ向ヘルヲ意味スルモノニシテ豫後良好ナルノ徴ナリ。但シ第9症例ノ示ス如ク甚ダシキ惡化ヲ來セル例アルヲ以テ、治療廢止、就業開始ノ可否ノ決定及ビ其様式ニ就テ慎重ナル注意ヲ要ス。

擧筆ニ臨ミ今村教授ノ御校閲ヲ感謝致シマス。

主要ナル文獻

- 1) Krimphoff, Beitr. z. Klin. d. Tbk. Bd. 55. S. 365. (1923).
- 2) Westergren, Erg. inn. Med. Bd. 26. S. 577. (1924)
- 3) Tillisch, 5. Nordiske Tuberkulosaegemde, Kopenhagen: Levin & Munksgaard. (1928).
- 4) Katz & Leffkowitz, Erg. inn. Med. Bd. 33. S. 266. (1928).
- 5) Mürer-Hollum, Norsk. Mag. Laegevidensk. Jg. 92. S. 935. (1931).
- 6) Leffkowitz, Die Blutkörperchenkung (Monographie) Urban & Schwarzenberg. (1932).
- 7) Jllig, Beitr. z. Klin. d. Tbk. Bd. 83. Ht. 3/4. (1933).
- 8) Berg, Beitr. z. Klin. d. Tbk. Bd. 83. Ht. 5. (1933).
- 9) 渡邊三郎, 紙野圭三, 結核. 第3卷. 1號. (大正14年).
- 10) 渡邊佳吉, 十全會雜誌. 第30卷. 第9號. (大

- 正14年).
- 11) 大谷誠, 日新醫學. 第15卷. 757頁. 967頁. (大正15年).
- 12) 吉本勝, 十全會雜誌. 第33卷. 第6號. (昭和3年).
- 13) 佐々虎雄, 小林芳夫, 結核. 第8卷. 1270頁. 1299頁. (昭和5年).
- 14) 東田一夫, 大沼清次, 大阪醫學會雜誌. 第30卷. 6號. 2151頁. (昭和6年).
- 15) 荒川, 日本傳染病學會雜誌. 第4卷. 11. 12號. (昭和5年).
- 16) 淺井貞臣, 結核. 第9卷. 第1號. 34頁. (昭和6年).
- 17) 今村荒男, 日本鐵道醫協會雜誌. 第19卷. 9號. (昭和8年).
- 大阪醫事新誌. 第4卷. 10號. (昭和8年).
- 18) 井下勝馬, 田中幸男, 米田庄三郎, 第11回日本結核結核病學會總會演說(昭和8年). *ハ原著未見)